

南摩ダム・湯西川ダム・ハツ場ダム

# ムダなダムをストップ！！

事務局だより No. 36 2011年 8月15日 ムダなダムをストップさせる栃木の会

東日本大震災・原発事故で被災された方々の

1日も早い復興を心からお祈ります

今こそ、不要不急のダム建設は凍結し  
災害復旧に全力を！！

【ムダなダム裁判】

## ☆対栃木県知事・3ダム訴訟・控訴審

2011年8月19日午後3時～ 東京高裁で進行協議

**地裁判決** 残念ながら3月24日に宇都宮地裁で出された判決は、『被告が独立行政法人水資源機構に対して思川開発事業からの撤退を怠る事実が違法であることの確認を求める訴えは不合法であるから却下、原告らのその余の請求をいずれも棄却』というものでした。原告側はただちに東京高裁に控訴し、第1回期日として8月19日に進行協議が予定されています。今後、口頭弁論をどう進めていくのかを協議するもようです。

**東京高裁では** 1都5県の裁判で共通しているハツ場ダムの訴訟は、他県ではすでに1年以上前から控訴が申し立てられています。東京高裁ではいずれも進行協議ばかりが3回も4回も開かれているだけです。もっとも進行が早い東京訴訟の場合でも、進行協議を重ねる中で、控訴人側から書面を提出し、それに対して被控訴人側も反論の書面を提出するということが1年以上続いているとのことです。

## 現地は今・・・

2年前、政権が変わった時には「やった～！！」と快哉を叫んでムダな公共事業の見直しに期待したものでしたが、その後大臣が変わるたびに事態は後退している感があります。

**湯西川ダムでは** 昨年9月、滑り込みで本体工事に着工した湯西川ダムでは県道付け替え工事が完成し、開通しました。周辺事業も進み、後世代にツケを残すと予想される「水の郷」の立派な箱モノも完成しました。新聞報道によると、水没する「風穴」の調査が続けられているようですが、大規模の掘削や水没によって貴重な自然が失われてしまえば、その後でメカニズムや価値を確認してもあまり意味がないのでは。それともこれからやれることが未だあるのでしょうか（裁判に勝って、ダムが完成しても水を貯めさせないとか？）。

**南摩ダムでは** 本体工事は一時凍結されていますが県道の付け替えで橋やトンネルの工事が進んでいます。現行計画のまま工事が再開されると完成は3年遅れて2018年度以降となり、工事遅延に伴う費用が20億円程度かかることが関係地方公共団体からなる「検討の場」幹事会

で水資源機構によって明らかにされました。また、8月11日に開かれた関東地方整備局事業評価監視委員会の資料によれば、今後の対応方針の原案は「転流工の工事は継続するが新たな段階には入らず、生活再建事業を進める」とされています。

**学会会議における検証** ハツ場ダムに関して中立的な検証が期待された学会会議の見直しも、ふたを開けてみれば結果はやはり国交省の主張を是認するもの？ 分科会は終了しているが国への正式な回答書は未だ提出されていないようです。

**情報公開裁判** このような状況の中で唯一、今後への希望が持てるものは、「利根川流域の洪水に関する資料を不開示とした国の決定が違法であるとして開示を求めた情報公開請求訴訟」で住民側が勝訴したことです。国は控訴を断念したようですが、この資料が開示されれば、長年ハツ場ダムの建設根拠とされてきた利根川流域の洪水流量計算の検証が可能となり、ハツ場ダム事業費差し止め訴訟にも有利に働くことが期待されます。

# ダム建設根拠原則開示

ハツ場判決で  
国が方針転換  
全国で検証可能に

下野 新

23年) 8月16日 (火曜日)

国土交通省は15日、ダム建設の根拠となる大洪水時の河川の最大流量(基本高水)を算出する基礎データについて、請求があれば原則として開示する方向で調整に入った。これ

## 基本高水

過去の最大洪水などから算出した最大級の雨が、そのまま河川に流れ込んだ場合に想定されるピーク時の流量。雨量や流量データに基づき、計算式をつくるなどして算出する。洪水の被害を防ぐ流域ごとの治水計画に、ダムや堤防の建設を盛り込む根拠となる。国交省は、ハツ場ダム建設の必要性の根拠となってきた利根川水系の最大流量を毎秒2万1000と算出している。

実上の方針転換。ダムた。一部のダムでは、建設の必要性に關し住民側の独自の検証も可能になりそうだ。大皇章宏国交相は15日午前の記者会見で「開示しても、国民の間に混乱を生じさせるとは言えない。判決に従い速やかに開示したい」と述べ、控訴しない考えを示した。政権交代を受けたダム事業の見直しで、国交省などは昨年未から全国83カ所について建設の是非を検証してきた。国側は「地域住民に混乱が生じる」などと

# 「ハツ場ダム」に照準

自民 民主公約に攻勢の構え

2011/8/14 野

自民党議員有志らが24日、民主党に衆院選で目玉公約の一つとしたハツ場ダム(群馬県)建設中止を誤り認めさせ、建設推進を求める集会を都内で開く。

制度を廃止へと追い込んだ余勢を駆って攻勢をかけてくる構えで、次の照準をハツ場ダムに合わせた格好だ。集会は、ダム流域6都県の建設推進派の地方議員がつくる「1都5県の会」と、自民党

国交省は2009年衆院選で「コンクリートから人へ」と訴え無出される。だが、地元やダム流域6都県の反発を受け、10年11月に馬淵澄夫国交相が中止方針を事実上撤回。現在、国が建設の是非を検証しており今秋にも結論が出される。

**奈良県の大滝ダムの試験貯水によって起きた地滑りで、集団移転した住民がダムを管理する国に約9000万円の損害賠償を求めた訴訟の控訴審で、大阪高裁は7月13日、「ダムは通常有すべき安全性を欠き、設置または管理に瑕疵があった」と国の過失を認め、慰謝料など1200万円の支払いを命じた(奈良地裁での一審判決は国の過失を認定しつつ賠償請求は棄却)。**

**福島県の藤沼ダム(高さ約18m・長さ約133m・農業用)が東日本大震災で決壊した。鉄砲水は7人の命を奪い、今も1人が行方不明という。壊れたダムの堤や川の護岸の復旧は手付かすのまま。藤沼ダムは土を台形状に固めたアースフィルダムで、完成から60年以上経っている。堤高15m以上の農業ダムは全国に約1700カ所あり、多くがこの構造というが、今回の震災では33カ所の農業用ダムで堤防のひび割れや法面崩れが見つかったという。**

2011/8/7 下野

2011/4/23 東日本大震災

# 湯西川ダム周辺 大規模掘削調査

東日本大震災で決壊した福島県須賀川市の藤沼湖は、震度6弱近

# 老朽ダム亀裂で決壊か

福島死者・不明8人

## 耐震性点検急務

決壊につながった可能性のあることが、福島大などの現地調査で分

安政南海地震で満濃池(香川県)が破堤して以来とみられる。藤沼湖は1957年のダムの設計基準制定以前に建設されており、専門家

用ダム湖で、1949年に建設された。アースフィルダムと呼ばれる台形に盛り土をしたダムで、地元の花川沿岸土地改良区が管理する。3月11日の地震直後に決壊し、湖水がほぼすべて流出。下流で8人の死者・行方不明者が出た。調査した川越清樹・

多くのダム建設に携わった芝浦工大の岡本敏郎教授(地盤工学)は決壊のメカニズムについて「地震でダムの堤体に滑ろうとする力が加わり、高さが下がった。そこに亀裂が生じてさらに水圧への抵抗力が減り、決壊に至ったのではないかと補足する。岡本教授は「今回の地震で設計時に想定した以上の地震に耐えたダムが多くあるのも事実だ。特に古いダムについては、通常の耐震性以外にも固有の弱点がないか、細かく早急に点検をすべきだ」と指摘する。【八田浩輔】

# 「風穴」構造ほぼ解明

春先になっても冷風穴の吹き出し口に残る氷塊。4月28日、日光市西川(国土交通省関東地方整備局湯西川ダム工事事務所提供)



大規模な掘削で構造が確認された風穴の断面。3月11日、日光市西川(国土交通省関東地方整備局湯西川ダム工事事務所提供)



冷風穴55カ所を確認、吹き出し口の温度、外気温、降水量などのデータを継続収集してき

谷底からそびえ立つコンクリート橋脚が、1本の道で結ばれた。日光市の湯西川ダム建設に伴い、国土交通省と県が整備した付け替え

## 社会部EYE

### 着工後もダム検証必要

本年度完成する同ダムの表向きの総事業費は1840億円。このほかダムの水を使う下流自治体が多額の費用を負担し、事業を支える。地元はダムを受け入れた見返りとして、公民館や消防施設などが次々と新しくなった。政権交代後のダム見直しが必要だ。(寛)

# 永久凍土から冷氣発生か

風穴の調査は2000年以上にわたって継続されてきた。これまでに

湯西川ダム周辺の風穴「2005」

ツトデータブックとちぎ」に特記すべき地形・地質(消滅寸前)として「栗山村の風穴」の名称で記載された。岩層の堆積する地形や斜面の向きなどいくつかの条件がそろふ必要があり、まれな自然現象である、とされている。

冷風穴55カ所を確認、吹き出し口の温度、外気温、降水量などのデータを継続収集してき

今年3月には構造を確認するための大規模な掘削調査も実施。これにより、風穴は、あ

川ダムモニタリング委員会の委員を務める宇都宮大の酒井豊三郎名誉教授(地質学)によると、風穴の調査でこれほど大規模な取り組みはないという。

今後29カ所が水没した後に、温度や風量

の岩石が強く冷却されるなどの変化を比較している必要がある。永

「守ろうとするならば、何をどうすればいいのかわからない科学的な下地をつくるのが大切だ」と話している。

2011年8月7日

下野新聞 2011年7月10日

秋の観察会

## ヤマナシ 収穫祭

南摩のシンボルツリー・ヤマナシを味わいながら

南摩の自然の復元・地域再生について考えてみませんか

日 時：10月29日（土）9時

集 合：鹿沼市上南摩・室瀬バス停付近（少雨決行）

持ち物：昼食、飲み物、観察用具適宜

主 催：ムダなダムをストップさせる栃木の会・思川開発事業を考える流域の会・  
日本野鳥の会栃木県支部・水環境条例制定ネットワーク

本の紹介

### 「原子力神話からの解放」

＝日本を滅ぼす九つの呪縛＝ 高木仁三郎著

2011年5月 講談社 762円

原子力という「パンドラの箱」を開けてしまった人類に襲いかかる放射能汚染の恐怖。巨大事故は10年に1度は起こっている。「パンドラの箱」を閉じることにはできるのか。反原発活動の生涯を貫いた論客は、JCOの臨界事故後（2000年）に本書を刊行し、2ヶ月後に帰らぬ人となったが、まるで今回の福島第一原発の事故を予見していたかのようなのである。福島第一原発事故がなぜ起きてしまったのか、本質的な問題は何なのか、今回の事故から何を学ぶべきか、の答えが本書にはある。（2000年8月に光文社より刊行された同名の書を一部訂正し、編註をつけたもの）

### 総会のお知らせ

2010年度・ムダなダムをストップさせる栃木の会  
総会を以下の通り開催します。会員の方はお誘い合  
せの上、多数ご出席ください。

日時：9月27日（火） 17：30～

場所：栃木県弁護士会館

ムダなダムをストップさせる栃木の会

事務局：小山市城東 2-10-22

TEL：0285-23-8505

FAX：0285-22-5608

年会費：3,000円

郵便振替口座：00140-1-500609